

医学教育振興財団の活動*1

紀伊國 献 三*2

はじめに

1979年4月に設立された医学教育振興財団は、わが国79の全医科大学(医学部を含む)が加盟する財団法人であり、医学教育の振興のためにさまざまな事業を行っている。今回は、1994年より1996年の活動について報告する。

1. 国内医科大学の視察と討論の会の開催

わが国の医学教育事情をすべての医科大学が参加して調査検討を行うこの会は、1980年筑波大学から始まった。2日間の日程で当番校がカリキュラムの中心となる教育の特徴について説明し、それを中心に総合討論を行うものであるが、とくに学生との対話も生まれ、毎回多くの医学教育関係者が参加している。1994年は、北里大学医学部で「新しい医学教育の開発と実践」を主課題として、1994年9月8日、9日の両日開催された。1995年は高知医科大学で9月7日、8日の両日、とくにシミュレーション教育を含む特色ある医学教育について討論を行った。1996年は9月13日、14日の両日、東海大学医学部において行われ、カリキュラムの理念、運営組織、生活指導、チュートリアル教育、臨床実習、学外での実習、国際交流、学生による授業評価、入試、学生との懇談など、盛りだくさんな討論がなされた。この視察と討論の会は、各大学が十分な準備のもとに企画され、参加者の利点ばかりでなく、準備校も医学教育について教職員の意識の高まりがあるなど、好評を得ている。

2. 医学教育指導者フォーラムの開催

医学教育は次第に国際的となりつつあり、各医科大学の医学教育の実際の改善のため、各大学の医学教育の責任者である役職者を中心に、医学教育指導者フォーラムを開催している。これは国際的な医学教育者を招き、講演会とその年の主題に基づく討論を2日間行っており、いずれの会も参加者が多数あり意義深いものとなっている。

1994年はアメリカのMontefiore Medical CenterのSpencer Foreman院長から「医学教育の環境の改善」と題して、アメリカの教育病院が直面する問題点の率直な分析と討議が行われ、さらにアメリカのNational Board of Medical ExaminersのThompson Bowles会長による「National Boardによる臨床能力の評価の方向」と題して、医師の臨床能力評価の試みについて討論がなされた。これを受けて、岩手医科大学の大堀勉理事長による「地域医療における岩手医科大学の役割」、自治医科大学齊藤寿一教授による「臨床能力評価の問題」の話題提供を中心とする総合討論が、外国人も含め国際的な雰囲気のもとに行われた。

1995年は英国Newcastle upon Tyne大学のJohn Anderson教授による「英国における医学教育の質の向上」、アメリカ医科大学協会会長Jordan Cohen氏による「変化する地域のニーズに対するアカデミック・メディカル・センターの対応」の講演と、国立国際医療センター・高久史磨総長の司会による「臨床教育における大学病院の役割」について活発な討論が行われた。

1996年は7月2日、3日の両日、英国Southampton大学医学部長Charles George教授による「英国における卒後および生涯臨床教育の実

*1 Activity of Japan Medical Education Foundation
キーワード：医学教育振興、医学教育研究、国際交流

*2 Kenzo KIHKUNI 国際医療福祉大学

態」, アメリカ Brandeis 大学総長 Stuart Altman 教授による「アメリカにおける卒後臨床教育の財政措置の問題」の講演があり, 総合討論は「より良き臨床教育のため何をなすべきか」を主題として, 東京女子医科大学病院・細田瑛一院長の司会で活発な討論が行われた。

これら医学教育指導者フォーラムは, 医学教育の問題点を多面的にとらえることを目標とし, 文部省, 厚生省の担当者も討論に加わり, 正確な記録が医学教育振興財団の雑誌に掲載されるなど, 資料的価値もあるものとなっている。

3. 医学教育の研究に対する助成

医学教育の研究に対する助成は公募によって行われ, 研究助成審査委員会の審査によって, グループ研究および一般研究をはじめ, 日本医学教育学会大会の基調テーマに対しても助成を行ってきた。当然のことながら研究については研究発表会を行い, 各大学に通知して公開発表を行っている。1994 年までは日本医学教育学会大会基調テーマに対して助成するという形もとってきたが, 日本医学教育学会大会も十分な発展がみられたため中止し, 若手の医学教育研究者に対する向上を願って, 医学教育に関する賞を設立し表彰することとし, その選考については姉妹団体である日本医学教育学会に依頼し, その選考過程の報告を受けて優秀なものを「懸田賞」として日本医学教育学会大会時に財団の賞として表彰することとした。その第1回の受賞者として, 1996 年7月, 埼玉医科大学の森田孝夫, 石田 清, 畑尾正彦の3氏に対する「医学教育賞(懸田賞)」の第1号の授与を行った。そのほかの医学教育研究助成も毎年行っている。

4. 地区別医学教育シンポジウムの開催

全国をブロックに分け, それぞれの地区で遠方まで旅行する負担を避けて, 若手の医学教育担当者を中心に医学教育に関するシンポジウムを開催するものであり, 94 年は鹿児島大学の主催で「医学部における外国語教育」「治療医学から予防医学への医療体系の変換と医学教育」をテーマに2日間のシンポジウムを開催した。とくにアメリカ UCSD 大学の宮井克己教授の「アメリカの医学教

育における問題点」の特別講演が関心を集めた。95 年は近畿地区において関西医科大学の主催で, 「臨床実習・研修の充実と評価」「自学自習型の教育」をテーマに, 東京大学開原允教授, 南フロリダ大学 Robert A. Good 教授の特別講演を中心に行われた。96 年は東北・北海道地区シンポジウムが山形大学の主催で行われ, 「医学教育における自己点検・評価への取り組み」「医学部入学者の選抜法, いかにあるべきか」をテーマに行われ, 東北大学・平名誉教授の特別講演も行われた。

5. 英国医科大学における臨床実習

医学教育指導者フォーラムに努力された英国医学協議会(GMC)との協力によって, 全国国公立医科大学の5, 6年生の卒前臨床教育の充実向上のため, 英国の医科大学において1か月間, 英国の学生とともに卒前臨床実習を行うものであり, 参加した学生の報告書からみると大きな刺激を受けたようであり, 参加医科大学も毎年増加している。94年からNewcastle upon Tyne 大学, Leicester 大学およびSouthampton 大学で臨床実習を行った。94年, 95年, 96年の参加者の大学名と学生名は, 以下に記すとおりである。

<94年>

Newcastle upon Tyne 大学	
自治医科大学	星野 卓之
九州大学	鳥巢 浩幸
名古屋大学	山本英津子
山形大学	鈴木友理子

Leicester 大学

名古屋大学	八谷 寛
兵庫医科大学	矢野 隆子
近畿大学	大田 隆代
順天堂大学	長濱 玲

<95年>

Newcastle upon Tyne 大学	
東京大学	東 尚弘
東京女子医科大学	小木曾智美
自治医科大学	永田三保子
関西医科大学	平尾 周也

Leicester 大学

東京大学	保坂 晃弘
------	-------

順天堂大学	荒井 美樹
名古屋大学	宮崎 景
佐賀医科大学	佐久間陽子

<96年>

Newcastle upon Tyne 大学	
京都大学	渡辺 励
大阪大学	上野 豪久
自治医科大学	木村まり子
札幌医科大学	風間 美江

Southampton 大学

東京大学	林 修一郎
順天堂大学	ウイデイ ニヤマン
川崎医科大学	福永 明子
東京女子医科大学	内野三菜子

98年以降は Leicester 大学も復活し、3つの大学で計12名の学生が臨床実習を行う予定となっている。

また、英国医学協議会の規則の改定により、1975年以降の新設医科大学の卒業生は、英国では臨床活動に従事することが困難であったものを、財団の努力で GMC からレフェリーを招待し、新設医科大学の医学教育の水準について審査を受けたところ、すべての新設医科大学が自らの経費で審査を希望し、すべてが合格したことも医学教育振興

財団の英国医科大学との連携活動にもよるところがあった。

6. その他

医学教育者のためのワークショップへの協力、医学教育資料の刊行などの活動を行っている。しかし、この期間もっとも大きな変化は、創立以来理事長であった懸田克躬先生が1996年3月1日90歳でご逝去になったことである。懸田先生は創立以来、医学教育振興財団の活動を推進されてこられた方だけに、財団の損失はきわめて大きかった。しかし、1995年10月ご発病になったときに、すでに次期理事長として東京女子医科大学・吉岡守正学長を後継者とご指名されていたため、交替はスムーズであり、吉岡先生には理事長代行としてまずご就任になり、96年3月からは理事長としてご活動をいただいた。吉岡守正先生は、日本医学教育学会大会の開催を前に96年7月8日ご逝去になった。財団としては1年間に2人の理事長を失うという悲劇に直面したが、幸い、懸田、吉岡両理事長から次に高久史磨氏を後継者と指名されていたため、高久先生が第3代理事長として1996年7月に就任され、新しい執行体制と新しい事務所に移転して引き継ぎ、活動を継続している。

* * *